

名取市産学官連携促進事業審査会会議録

1. 会議の年月日

令和7年6月27日（金） 午後2時00分から午後4時50分まで

2. 会議の場所

名取市商工会 2階大会議室

3. 出席委員

洞口委員長、小松委員、小平委員、山家委員

4. 会議に出席した者

商工観光課 守課長、松浦主幹兼商工振興・雇用促進係長、片桐主査

5. 会議の概要

(1) 開会

本日の会議について、「名取市審議会等の会議の公開に関する要綱」に基づき公開しているが、傍聴者はいない旨を報告し、開会した。

(2) あいさつ（洞口委員長）

本日は5件の応募事業について、審査を行っていただく。

例年よりも多く申請があり、市内産業の活性化や教育機関との交流、連携がより一層深まることが期待されるので、委員には活発にご審議いただきたい。

(3) 審査

（ア）審査方法等について

事務局より審査の流れ及び審査方法と審査ポイント、また、各審査項目が平均3点以上獲得することを事業採択要件とする旨が提案され、了承された。

（イ）「フルーツや花を用いた雑貨等の宙と海とおもひでをつなぐ商品開発プロジェクト」

（午後2時10分～午後2時35分）

事業者：株式会社 MARON CARMEL COMPANY 1名

当日配布資料に基づき、申請者より今年度の計画内容について説明が行われ、その後、質疑応答が行われた。

【質疑応答概要】

Q：収支予算書にパッケージ製造、パンフレット印刷とあるが、今年度に販売まで行うということか。

A：商品開発を行い、完成したものからテストマーケティングを兼ねた販売という位置付けで、仙台や関東圏で販売していきたいと考えている。

Q：令和８年度の計画としては、バスボムの商品化を目指しているという理解で良いか。

A：バスボムは比較的簡単に商品化できると考えているが、種類によっては販売の許可等を受けなければならないものもある。また、製品の分析・検査を行う必要もあるため、検査機関と相談しながら、販売のスケジュールを検討していきたい。

Q：香りの抽出は教育機関で行うのか、それとも自社で行うのか。

A：自社で抽出していきたいと考えている。

Q：教育機関との連携について、主な連携先は東北大学とあるが、ブランディングと商品開発の連携先の住み分けは？

A：東北大学ではブランディングとマーケティングの部分、商品開発は宮城県農業高校と宮城県産業技術総合センターと連携して実施していく考えである。なお、宮城県農業高校からは今年度は原材料の調達をお願いする。

(ウ)「仙台セリ鍋フリーズドライ化計画」

(午後２時３５分～午後３時００分)

事業者：有限会社まるしげ ２名

教育機関：尚絅学院大学 ２名

当日配布資料に基づき、申請者より今年度の計画内容について説明が行われ、その後、質疑応答が行われた。

【質疑応答概要】

Q：OEM先の具体的な候補先はあるか。また、今後どのようなアプローチをしていくか。

A：候補先とは今後打ち合わせをする予定ではあるが、こちらの希望通りの規格で製作してくれるOEM先を見つけるのに苦慮している。OEM先の既存の規格での製作であれば時間はかからずできると思うが、希望の規格よりも小さくなり、「鍋」ではなくなってしまう。セリ鍋が実現できるようなOEM先を見つけていきたい。

Q：フリーズドライ化するのはセリだけではなく、その他の具材も一緒にフリーズドライ化するのか。具材を小分けにしてそれぞれフリーズドライ化し、食べる際に一つにまとめる考えはあるか。

A：セリのためのフリーズドライ化だとコストがかかってしまうため、鶏肉や他の具材も一緒にフリーズドライ化する。具材を小分けにしてそれぞれフリーズドライ化する考えもあったが、小分けにすると具材が細かくなってしまい、「鍋」ではなくなってしまう。鍋の具材感を出せる大きさをフリーズドライ化できるよう検討をしていきたい。

Q：ふるさと納税返礼品について、フリーズドライ化したセリ鍋を返礼品に加えるとしたら、セリの提供できる総量を考えると、すでに返礼品となっているセリ商品を提供できる量は減ってしまうのか。

A：提供できる総量としては、生産者と相談し、フリーズドライ化したセリ鍋を返礼品に加えてもすでに返礼品となっているセリ商品の提供量を減らさずに提供できると考えている。

(エ)「名取の資源を使用した常温商品開発プロジェクト(2)」

(午後3時00分～午後3時25分)

事業者：有限会社まるしげ 2名

教育機関：尚絅学院大学 2名

当日配布資料に基づき、申請者より今年度の計画内容について説明が行われ、その後、質疑応答が行われた。

【質疑応答概要】

Q：令和6年度に開発を進めたしらすせんべいについて、販売の具体的なスケジュールは。

A：現在コスト面での検討をしている。提携している煎餅店にお願いし、可能な限りコストを抑えてしらすせんべいを製作してもらい、1枚の原価がいくらになるか結果を待っている状況。検討し、早ければ8月中旬を目途に販売できると考えている。

Q：収支予算書について、「新商品発表の場創出に係る経費」の内容は。

A：商品ができたなら試食会をしたいと考えているが、その試食会に係る食材費や会場費を想定している。

Q：今年度開発を予定している常温商品について、ドレッシングを候補の一つとして考えているということだが、ドレッシングは販売している事業者が多く、競合するのではないか。ドレッシングの販売のターゲット層はどこか。

A：これから尚絅学院大学でマーケティングしていくが、ドレッシングを開発するとしたら高級路線というよりも、より多くの人に知ってもらえるよう、気軽に買ってもらえるような方向性になると考える。

(オ)「名取まるごと弁当プロジェクト（仮）」

（午後３時３５分～午後４時００分）

事業者：おべんとうのトミー ２名

教育機関：尚絅学院大学 ２名

当日配布資料に基づき、申請者より今年度の計画内容について説明が行われ、その後、質疑応答が行われた。

【質疑応答概要】

Q：今年度は食べ歩き等が出来るようなストリートフードの開発とあるが、どのようなものを開発する予定か。

A：これから尚絅学院大学の学生に考案してもらおうと思っているが、名取市らしいもの、今までにないような全く新しいものを作ろうと考えている。

Q：全体計画書について、令和７年度と令和８年度にロゴの制作とあるが、どのようなものを制作する予定か。

A：令和７年度はお店を表現するようなロゴマークを考えている。令和８年度は、令和７年度で制作したものをベースにして、お弁当に貼るシールやキャラクターの制作を考えている。

Q：ストリートフードの開発について、具体的にはいつ発売する予定か。

A：目標としては、名取市の秋まつりへの出店を目指したい。難しい場合は尚絅学院大学の文化祭やオープンキャンパスで販売したいと考えている。

(カ)「名取市生産きくらげを使用した商品開発・廃菌床を使用した肥料等開発（仮）」

（午後４時００分～午後４時２５分）

事業者：株式会社一路 １名

教育機関：尚絅学院大学 ２名

当日配布資料に基づき、申請者より今年度の計画内容について説明が行われ、その後、質疑応答が行われた。

【質疑応答概要】

Q：今年度はカットきくらげを使用した商品開発を行うとのことだが、メニュー等具体的に考案しているものはあるか。

A：カットきくらげの特徴は、水で戻さなくても料理に使用できることであり、餃子や肉まんに入れ込んで食感を楽しんだり、プリンやヨーグルトに入れたり様々な使用について当社で試しているところである。商品展開しやすいため、

尚絅学院大学と連携してメニュー等を考案していきたい。

Q：今年度は廃菌床を使用した肥料等の開発もするとのことだが、カットきくらの商品開発と並行して開発を進めていくのか。

A：同時進行で開発していく考え。尚絅学院大学総合人間科学研究機構に属している環境デザイン教育研究センターで研究を進める。

(キ) 審査結果の集計・発表

事務局より事業者評価表の総括表を各委員に配布し、結果内容を読み上げて、5事業者全ての項目で平均3点以上となった旨の報告を行った。

委員長より、審査結果に基づき採択することで全出席委員の了承を得た。

(4) 閉会

事務局より、本日の審査結果を市長に報告した後、補助金交付の可否を決定の上、市ホームページにも結果について掲載する旨説明し、了承を得て審査会を終了した。